



Kotohomu.Ilc Repository

物語世界を「生かす」ための
時代考証ライブラリー
【資料編】



S-01





教会の横で、なぜ研究所(大学)が生まれたのか？

～ファンタジー世界の「科学と魔法の対立」に、
思想的根拠を与える～





あなたの物語に登場する神殿や教会は、新しい技術——それが魔法であれ科学であれ——と、どう向き合っていますか？

多くの物語で描かれる「宗教と科学の対立」。
それは単なる権力闘争なのでしょうか。

もし、その対立の根源に、「真理（＝正しさの根拠）」に対する、決して相容れない思想的な違いがあったとしたら。

この資料は、現実世界の歴史において、近代科学の発展とキリスト教の倫理観がどのように影響し合ったのかを解き明かすものです。

この背景を知ることで、あなたの世界の「対立」は、より深く、よりリアルな思想的葛藤へと昇華されるはずです。





プロテスタントと科学の「蜜月」

▼ なぜ、近代科学は発展したのか？

「科学信仰」のルーツがプロテスタントにあり、それはカトリックのアンチテーゼではないか。

社会学者ロバート・K・マートンが提唱した「マートン・テーゼ」という有名な議論につながります。

結論から言うと、「プロテスタントの倫理観が、近代科学の発展を文化的に後押しした側面は確かにある」と考えられています。

17世紀イギリスで科学革命が進んだ背景には、当時影響力が強かったプロテスタントの一派、「ピューリタニズム（清教徒主義）」の精神があったのです。

▼ 神の栄光のための「善行」

ピューリタニズムの基本的な考え方は、「神の栄光のために、この世界でガンガン働いて善をなせ！」というものです。

この文脈において科学技術の発展は、自然界の秩序を解明し、人間の生活を向上させることで神の栄光をたたえる、素晴らしい「善行」と見なされました。

▼ 合理性と経験主義

また、「聖書を（聖職者の解釈を介さず）自分で読んで理解する」というプロテスタントの姿勢は、識字率を高め、合理的な思考を育みました。

この態度が、自然という「第二の書物」を自らの目で観察し、実験を通じて法則を見つけ出そうとする科学的な精神（経験主義）と、非常に相性が良かったと考えられています。



カトリックは「アンチ科学」だったのか？

カトリックが原因探求のアンチテーゼだったのかというと、これも一筋縄ではいきません。中世ヨーロッパの大学はカトリック教会が母体ですし、天文学は教会の暦を計算するために不可欠で、むしろ教会が最大のパトロンでした。あのコペルニクスもカトリックの司祭でした。

ガリレオ裁判のイメージが強く「カトリック＝アンチ科学」と思われがちですが、聖書の解釈をめぐる教会の権威の問題であって、科学そのものを否定したわけではない、というのが今の一般的な見方です。

ただ、カトリックが「神の啓示」や「教会の権威」を最終的な真理の拠り所とするのに対して、プロテスタンティズムは「個人の理性」で神が創造した世界（自然）を探求することを奨励したというアプローチの違いが、近代科学のアクセルになったのではないか、というのがマートンの主張の骨子です。

▼ 結論

—科学信仰の基底にプロテスタントの考え方があるか？

はい。その倫理観が近代科学の精神と相性が良く、発展を強く後押しした、という有力な説（マートン・テーゼ）があります。

—原因探求はカトリックのアンチテーゼか？

いいえ。「アンチ」というより、真理へのアプローチが違った、という方が正確でしょう。

プロテスタントというOSが、たまたま近代科学というアプリケーションの動作環境として、カトリックというOSより少しだけ相性が良かった、くらいのイメージが近いかもしれません。



創作のヒント：思想的OSから「対立」を設計する

ヒント①：宗派による対立を描く

世界の真理を「聖典と教会の権威」に求める旧教会と、「個人の理性で自然を探究すること」を奨励する新宗派。

両者の対立は、単なる権力争いではない、根源的な思想的対立として描くことができます。

新宗派の国でだけ科学技術が異常に発展しているという設定も面白いでしょう。

ヒント②：「科学発展」の動機を設計する

ある国で科学や錬金術が爆発的に発展した理由は、決して宗教への反発からではなく、むしろ「神が創りし世界の謎を解き明かし、その偉業を讃えるため」という、極めて敬虔な信仰心からだった、という設定。

これは物語に意外性と深みを与えます。

ヒント③：キャラクターの葛藤を描く

敬虔な神官でありながら、世界有数の科学者でもある主人公。

ある日、自らの研究結果が、教会の教えと根本的に矛盾することを発見してしまう。彼は「信仰」と「理性」の狭間で、どのような選択をするのか。

その葛藤は、キャラクターを人間的に描き出す最高の舞台となります。





おわりに

このシリーズは、歴史の断片的な知識ではなく、その裏側にある「なぜそうなったのか」という論理と価値観の変遷を、物語を創るための武器として提供することを目指しています。

「お約束」を理解し、その上で史実というスパイスを加えることで、世界は驚くほど立体的になり、登場人物は「生きた人間」として動き始めます。

この資料が、あなたの創作活動の一助となれば、これに勝る喜びはありません。創作活動から、企業のブランディングまで。

物語の力で未来を創造する「ことほむ」は、あなたの挑戦をいつでもお待ちしております。

ことほむ合同会社（時代考証・文化観光 ナラティブバリュー・コンサルタント）

<https://kotohomu.com>

■本資料のご利用にあたって

本書の著作権は、ことほむ合同会社に帰属します。

著作権法で認められている引用の範囲を除き、弊社の許可なく、本書の内容の全部または一部を無断で転載、複製、改変、販売、再配布することを固く禁じます。

本書に掲載された情報の正確性には万全を期しておりますが、その内容の完全性・正確性を保証するものではありません。

本書の情報をを用いて行う一切の行為について、弊社は何ら責任を負うものではありません。

© 2025 ことほむ合同会社

